

北海道を美しい庭園の島に

特定非営利活動法人ガーデンアイランド北海道 事務局長 有山忠男

●はじめに

今から10年前、「北海道を美しい庭園の島にしよう」を合い言葉に、「ガーデンアイランド北海道」（略称 GIH）という一つの道民運動がスタートしました。それから今日まで、フォーラムの開催や北海道のガーデンツアーの実施、ウェルカム花壇の制作、ガーデンガイドブックの作成など各種事業を展開し、北海道の花とガーデンの魅力を内外にアピールしてきました。この10年間を振り返りながら、ガーデンアイランド北海道の取り組みの一端を紹介します。

●ネットワーク型イベントを目指して

ガーデンアイランド北海道がスタートしたのは2003年、北海道の造園・園芸業界が期待していた「花博」の開催が、北海道の財政事情で当面見送られたことに対して、業界団体がそれに代わるイベントとして発案したのがきっかけです。このとき、民間の資金力だけでは限界もあったため、とにかくお金をかけないで効果的な花博を行うにはどうしたらよいかということが議論され、その結果、発想されたのが「ガーデンアイランド北海道2008」というイベントでした。

ここで目指したものは、北海道全域をつないだネットワーク型のイベントであること、そしてイベントの主体は行政主導あるいは業界団体主導ではなく、もっと多くの市民や一般企業も参加できる民間ネットワーク型のイベントでした。

●ガーデンアイランド北海道2008の開催

このようなコンセプトに沿って実施されたのが、「ガーデンアイランド北海道2008」というイベントで、4月末から10月末までの約6ヶ月間に、以下のような事業が実施されました。



2008年イベント風景

- 1) 全道のガーデン約120箇所ネットワークづくり
- 2) ガーデンアイランドツアーの企画・開催、協力
- 3) フォーラム・シンポジウムの開催
- 4) ガイドブック、インターネットによる情報発信

そして、このイベントを通じて高まった一つのガーデンムーブメントを、イベント終了後も継続して、息の長い道民運動として発展させていこうというシナリオを描き、NPO法人ガーデンアイランド北海道がその役割を担っています。

●継続的なネットワークづくりと地域への展開

2008年のイベントの最も大きな成果は、このイベントをきっかけに築かれた全道のガーデンのネットワークとそれに関係する人たちのネットワークでした。また、このイベントにあわせて作成したガーデンガイドブックは、その後も毎年発行し、GIH活動の貴重な財源の一つになるとともに、GIH運動の灯を絶やさず、様々な人たちをつなぐ重要なネットワークツールとなっています。



このようなGIH活動が一つの基盤となって、地域での取り組みも盛んになっています。2009年から始まった十勝と富良野、旭川をつなぐ北海道ガーデン街道はその一つです。これらの地域に立地する8箇所の優良ガーデンを一つの街道としてつなぎ、一体的にガーデンの魅力をアピールするもので、一躍注目を浴びることとなりました。

●北海道のガーデン文化づくりを目指して

これらの取り組みが一つの刺激となり、近年、ガーデンツーリズムという概念も生まれました。これは従来のような花を見るだけのツアーから、地域の文化や食、体験などが加わった質の高いガーデンツアーへの発展を目指しており、北海道の新たなガーデン文化づくりの提案とも言えるものです。



ガーデンツーリズムの実現へ

それに必要なことは、ガーデンのグレードを高めるための園芸家、ガーデナーなどの人材育成です。加えて、そうした人々を育てる、北海道のガーデンツーリズムを普及させるための組織も必要です。これらが実現しなければ、「北海道を美しい庭園の島にしよう」という合い言葉は、単なるかけ声で終わってしまうように思います。

そのためにも、今後、財源の確保による安定した組織づくりを目指しつつ、人材の育成と新しいガーデン文化の創造に着実に取り組んでいきたいと考えています。